

DECEMBER NEWSLETTER

～私たちの感謝祭&クリスマス～

婦人より～

サンクスギビングの日は食事会をしました。
みんなで食べた食事、デザートは美味しかったです。
また、交わりの中で神様のみことばで日々養われていること、どんな時も神様が共にいてくださっていることに感謝しました。

主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。(詩篇118:1)



わたしはあなたに命じたのではない。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。(ヨシュア1:9)

今年は山火事からの避難生活を通して、神様が私たち家族にたくさんのことを教えてくださいました。神様に願うこと、みことばにたつこと、実際に行うこと、信仰のステップを一つずつたどって、10月には神様が新しい家を与えて下さいました。途中、環境に目がいて夫婦喧嘩をしたり、回り道もしてしまいましたが、牧師夫人がその都度教えて下さり、パスターもわたしの改めるべきところをみことばを通して教えて下さいました。神様がいつもともにいて導いて下さっているということを体験した一年でした。

感謝祭には教会のコースの仲間、主人の職場の人を招いて食事会をしました。神様がして下さいましたことに感謝して、仲間同士良い交わりの時間となりました。ハレルヤ🙌



私たち家族は、数年前、不和の原因で家族が一時期バラバラに住んでいました。でも破壊寸前だった家族を、神様がもう一度集めてくださり、昨年、新しい家も与えられ再出発することができました。神様はどんな時も良き神様で、試練の時をもすべて益にして、いつも脱出の道を備えてくださいます。その道は、神様の愛です。今年1年、他にも書き記すことができないたくさんの祝福、恵み。愛を与えて下さったこと、父なる神様、イエス様、聖霊様に心より感謝致します。

まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来ましょう。
私は、いつまでも、主の家に住まいましょう。(詩編23:6)



教会に来る前の私にとって、12月のクリスマスは、イエス・キリストの誕生日という漠然とした認識でしかなく、プレゼントをもらったり渡したりする行事でした。しかし、仕事を失い強い孤独を感じていた時、12月の初めの週に教会へ導かれ、大人として初めて訪れた教会で、クリスマスの意味を繰り返し聞くようになりました。それ以来、クリスマスは単なる誕生日ではなく、イエス・キリストがこの世に生まれ、私のためにいのちを捧げて下さったこと、そして神がいつも共におられ、私を愛しておられることを知る日となりました。毎年この時期になると、孤独から喜びへと導かれた原点を思い起こします。感謝いっぱい喜び溢れる季節です。

やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。
死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った。
(聖書: イザヤ書9:22)

ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。
ひとりの男の子が、私たちに与えられる。
主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。
(聖書: イザヤ書9:6)

